

松田「日本の顔」

世界男子ソフト来月開幕

投打の軸となる松田光



長打力が魅力の小見山敦史

平林金属クから3人選出

ソフトボール男子の世界選手権は7月7日から10日間、カナダ・ホワイトホースで開かれる。日本代表には平林金属ク(岡山市)から投打の主力を担う松田光ら3人が名を連ね、準優勝した2000年以来5大会ぶりのメダル獲得に挑む。(森川進豪)

チームは選手17人、スタッフ5人。平林金属クからは3大会連続出場のエース松田のほか、主将の小見山敦史、アシスタントコーチとして帯同する吉村啓監督がそれぞれ初めて参加する。



吉村啓監督

松田は、代表の岡本友章ヘッドコーチ(高知バシフィックスウェーブ監督)が「ジャパンの顔」と話すチームに欠かせない存在だ。昨季は平林金属クの国内3冠(全日本クラブ選手権、全日本総合選手権

- 予選リーグ組み分け
- ▽A組
 - カナダ、オーストラリア、ドミニカ、アルゼンチン、南アフリカ、香港
 - ラリ、オーストリア、共和国、米、インド、ベネズエラ、イギリス、トルコ
 - ▽B組
 - ニュージーランド、チエマコ、日本、デンマーク、ポーランド

小見山らメダル獲得へ決意

「一塁手兼外野手の小見山は代表最年長の34歳。長打力が魅力の強打者は5、6番での起用が見込まれ「海外勢の速球に対応できる自信はある。こころで打ちたい」。左の大砲に気後れはない。吉村監督は昨夏、世界シニア選手権男子代表でもアシスタントコーチを務めた。35年ぶり2度目の栄冠に貢献した経験を生かし、「相手の配球やくせを見抜き、少ない好機に生かせれば、体調管理にも気を配りたい」とする。世界選手権は前回(15年)覇者のカナダや最多6度の優勝を誇るニュージーランドなど16カ国・地域が参戦。2組に分かれて1回戦総当たりの予選リーグを行い、各組上位4チームが敗者復活戦を含む変則トーナメントで競う。前回、日本は決勝トーナメント2回戦でオーストラリアに敗れ、4大会連続の5位に終わっている。